



メディアコミュニケーション による地域支援



ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科／表象文化論、映像表現

猿渡 学 SARUWATARI Manabu

准教授、文学修士

1. 研究内容

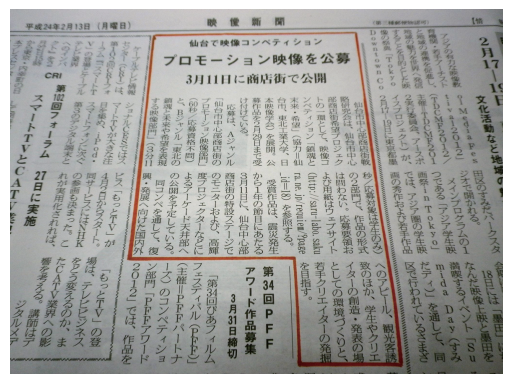
映像をコミュニケーションの一環ととらえ、主に映像による表現行為など、実践をもとに研究を進めている。地域連携においては、これまで震災以降の気仙沼中心部商店街の定点的記録収集とアーカイブス化、仙台市中心部商店街の復興イベントの総合プロデュースならびにアートディレクション、PRプロモーションの制作およびイベントの中継などをおこなった。また、震災をコンテキストとしたイメージ映像、長編映画（自主制作）を制作した。「人」にアプローチする方法論により、その地域の魅力をアウトプットすることで、再興と再生を目指す地域に貢献する研究を継続している。

2. 地域・産学連携の可能性

工学系の研究による技術的な連携・貢献とは異なり、ソフトウェア（コンテンツ）の提供が可能で高い。したがってこの研究は、特に地域との連携において親和性がある。

具体的には、長期にわたる関わりからその地域の魅力、その地域に生きる「人」にアプローチしつつ、関係者（連携先ならびにプロジェクトメンバー）と協議しながら、その地域に最も適したプロモーションを模索する。これまでの経験から、映像イベント（プロモーション映像の制作、インターネットを利用した独自番組の発信など）が提供可能であり、マスコミなどの「ニュース」とは異なる、その地域を取材しリポートすることが出来るため、連携先の地域の意向を十分に組み込むことが可能である。

これらの映像制作は、長期にわたる関わりの中から生み出されるため、連携先とはこの点において協同を求めている。



再興と再生、映像コンテンツの提供、定点的記録収集